

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果概要

1 調査概要

(1) 調査を実施した学校・児童生徒数（学校数、児童生徒数には、特別支援学校を含む）

調査日		【小学校調査】 6年		【中学校調査】 3年	
平成31年4月18日（木）		学校数	児童数	学校数	生徒数
全国	公立学校	19,299校	1,062,730人*	9,572校	1,002,814人*
茨城県	公立学校	484校	24,854人*	225校	24,799人*

*児童生徒数は教科・分野ごとに異なるが、最大数を記している。

(2) 調査内容

【教科に関する調査】 以下の5分野で実施（英語は、はじめての実施）

「知識」と「活用」を一体的に出題した問題	【小学校調査】		【中学校調査】		
	国語	算数	国語	数学	英語
○	○	○	○	○	○

【生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査】 ・児童生徒質問紙調査 ・学校質問紙調査

(3) 問題の構成

○ 今年度調査より、従来のA B区分がなくなり、全ての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となった。

○ 問題数も大きく削減された。

	令和元年度	平成30年度
小学校国語	14問	20問 (A12問, B8問)
小学校算数	14問	24問 (A14問, B10問)
中学校国語	10問	41問 (A32問, B9問)
中学校数学	16問	50問 (A36問, B14問)
中学校英語	21問	

2 結果一覧（公立）（％は平均正答率）

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
茨城県	66 %	66 %	75 %	60 %	56 %
全国	63.8 %	66.6 %	72.8 %	59.8 %	56.0%
順位	12位	19位	5位	15位	13位

※都道府県別の教科の平均正答率は、国から、小数点以下を四捨五入した整数値で提供されている。

【参考1】全国学力・学習状況調査の経緯

調査年度	調査方式	抽出率	希望利用率	実施率
平成19年度～21年度	悉皆調査			100%
平成22年度	抽出調査	30.8%	64.7%	95.5%
平成23年度	調査見送り			
平成24年度	抽出調査	31.1%	68.9%	100%
平成25年度～	悉皆調査			100%

※平成23年度は、東日本大震災のため調査見送り

【参考2】前回調査（平成30年度）の結果

区分	【小学校調査】					【中学校調査】				
	国語		算数		理科	国語		数学		理科
	A知識	B活用	A知識	B活用		A知識	B活用	A知識	B活用	
茨城県	70.7%	56.3%	65.0%	51.8%	63.5%	76.6%	61.9%	66.3%	46.7%	67.9%
全国	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%	60.3%	76.1%	61.2%	66.1%	46.9%	66.1%
順位	23位	12位	11位	16位	5位	15位	12位	21位	16位	9位

※県の平均正答率及び順位については、国から提供された設問別平均正答率を県が加工して算出

3 課題と改善策, 成果

(1) 全体概要

【課題】

国語, 算数・数学

→読解力, 論理的思考力が課題 (国語, 算数・数学の共通の課題)

英語

→技能統合型の言語活動, 表現力が課題

【改善策】

国語, 算数・数学

→国の学力調査官からの指導・助言を基にした, 読解力, 論理的思考力の指導方法の工夫改善

英語

→生徒の言語活動を中心とした4技能の総合的な育成を目指した指導方法の工夫改善

○各学校に対する県の支援策

国語, 算数・数学

・第2回学力向上推進協議会 (8/23)

県が独自作成した全国学力・学習状況分析報告書(読解力, 論理的思考力に重点化した資料)の活用

44市町村教育委員会とともに学力向上の方向性の協議 (大学教授等が指導・助言)

・授業名人による授業動画の提供

読解力, 論理的思考力についての指導方法の工夫改善

英語

・英語コミュニケーション能力育成事業

英語を使って双方向的かつ論理的にコミュニケーションを図る力を高めるため, 英語インタラクティブフォーラムの改善

・中学校英語教員の外国語教育指導力向上研修

4技能を高めるオールイングリッシュの授業づくりのためのワークショップ型研修の実施

【成果】

国語, 算数・数学

→課題とされていた読むことの領域 (国語), 資料の活用領域 (数学) に改善が見られた。

英語

→聞くこと, 読むことの領域 (英語) に成果が見られた。

(成果の要因)

○各学校における授業改善

国語

→複数の資料を関連付けて読む指導方法の工夫改善

算数, 数学

→中学校数学学力向上研修会にて資料の活用領域の指導案の協働立案, 指導方法の工夫改善

英語

→英語を聞いたり, 読んだりする中で, 概要や要点をとらえる活動等の指導方法の工夫改善

○児童生徒の家庭学習の取組などの学習習慣が定着

○各学校に対する県の支援策

・少人数教育充実プラン推進事業 (H21～)

小・中学校の全学年で, 少人数学級やティーム・ティーチングを実施

・学力向上推進プロジェクト事業 (H20～)

授業力ブラッシュアップ研修 (モデルとなる授業の公開及び調査官による指導・助言)

・学びの広場サポートプラン事業 (H21～)

小学校4, 5年生対象に算数の補充指導を実施 (H21～小4, H24～小4, 5)

中学校1, 2年生対象に数学の補充指導を実施 (H27～)

・みんなにすすめたい一冊の本推進事業 (H13～小学校, H18～中学校)

小学校4～6年生, 中学生対象に読書を奨励し, 賞状を授与

・中学校英語力向上事業 (英語)

全公立中学校2年生を対象としたスピーキングチェックを活用した学習及び授業の改善

(2) 国語
【課題】

○小学校

- ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと
- ・目的に応じて、質問を工夫すること

○中学校

- ・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと
- ・話合いの話題や方向をとらえて自分の考えをもつこと

【改善策】

○小・中学校

- ・学習の目的（何ができるようになるのか・どんな力を身に付けるのか）と課題を解決していく学習過程（どのように学ぶのか）を明確にし、主体的に学ぶ力を育成する。
- ・自分の考えの根拠となる情報を複数の資料（図表やグラフ等も含む）から関連付けて読み取り、的確に表現する授業を展開する。
- ・自分の考えを的確に伝えるために、より適切な語彙を選択したり、正確な表記や効果的な構成を意識したりして、表現できるような指導を系統的に行う。
- ・「話すこと・聞くこと」の学習で身に付けた力を、インタビューやグループディスカッション等、他教科等の学習や日常生活において発揮できるよう、教科横断的な視点での授業を設定する。

<具体例>

【課題】

(小学校)

- ① 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことを書く問題
- ② 昼職人への【インタビューの様子】の□の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する問題

本県	35.2%
全国	28.8%

本県	69.2%
全国	67.4%

◀「言語についての知識・理解・技能」における課題>

- ・「漢字（同音異義語）を文の中で正しく使う」こと
- ・「文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」こと

(中学校)

- ① 新聞記事の一部「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。…第一回は、弁当です。」について説明したもとして適切なものを選択する問題
- ② 話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く問題

本県	67.3%
全国	63.9%

本県	63.0%
全国	60.4%

◀「言語についての知識・理解・技能」における課題>

- ・「封筒の書き方を理解し、文字の大きさや配列などに書く」こと

【成果】

(小学校)

- ① 必要な情報を得るために、本や文章全体を概観して効果的に読む問題
- ② 目的に応じて文章の内容を的確に押さえて読む問題
- ③ インタビューの場面で相手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認するための質問をする問題

	①	②	③
本県	90.7%	82.3%	82.9%
全国	88.5%	80.7%	81.3%

(中学校)

- ① 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する問題
- ② 話合いの話題や方向を捉える問題

	①	②
本県	87.9%	82.6%
全国	87.4%	80.4%

(児童生徒質問紙調査)

※「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合

	国語の勉強はすき		国語の勉強は大切		国語の学習は将来に役立つ	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
本県	68.4%	65.5%	93.7%	91.5%	92.1%	89.5%
全国	64.2%	61.7%	93.0%	91.0%	91.2%	88.0%

(3) 算数・数学

【課題】

○小学校

- ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること（事実の説明）
- ・資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述すること（理由の説明）

○中学校

- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること（方法・手順の説明）
- ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること（理由の説明）

【改善策】

○小学校

- ・図形と式とを関連付け、式や数の対象を明確にしたり、式の意味を説明したりすることができるようにする授業の展開を図る。
- ・二つのグラフをどのように関連付けて考えれば、必要な情報が得られるかを判断できる授業の展開を図る。

○中学校

- ・様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「使い方」について明らかにすることができるような授業の展開を図る。
- ・説明すべき事柄を、判断することとその事柄が成り立つ理由を記述する活動を取り入れた授業の展開を図る。

<具体例>

【課題】

(小学校)

- ① 減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く問題

本県	38.3%
全国	43.9%

- ② 二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く問題

本県	49.2%
全国	52.1%

(中学校)

- ① 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する問題

本県	37.9%
全国	34.7%

- ② 「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由をヒストグラムの特徴を基に説明する問題

本県	44.4%
全国	40.8%

【成果】

(小学校)

- ① 長方形を直線で切ってできた図形の中から、台形を選ぶ問題
- ② 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題
- ③ 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題

	①	②	③
本県	92.1%	95.4%	74.2%
全国	93.1%	95.2%	60.1%

(中学校)

- ① 平行移動の意味を理解する問題
- ② 反例の意味を理解する問題
- ③ 問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる問題

	①	②	③
本県	82.4%	78.6%	57.6%
全国	83.6%	77.2%	53.6%

(児童生徒質問紙調査)

※「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合

	算数・数学の勉強はすき		算数・数学の勉強は大切		算数・数学の学習は将来に役立つ	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
本県	67.0%	56.6%	93.9%	85.6%	93.3%	78.6%
全国	68.6%	57.9%	93.7%	84.2%	92.5%	76.2%

(4) 英語
【課題】

- ・(聞くこと) 聞いて把握した内容について適切に応じること
- ・(読むこと) 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえること
- ・(書くこと) 決められた時間の中で考えを整理し、まとまりのある文章を書くこと

【改善策】

○技能統合型の言語活動の充実

- ・聞き取った語句で空所を補充したり、聞き取った表現をそのまま書いたりする活動にとどまらず、まとまりのある英文を聞いたうえで、その内容について聞かれたことに対して書いて答えたり、内容の要点や自分の意見を表現したりする言語活動の充実を図る。
- ・目的をもって読んだり、読んだ後に感想等を表現し合ったりする活動を計画的・系統的に行う。
- ・「話すこと[発表]」の活動で、自分の考えや気持ちを伝えた後に、伝えたことを文章にまとめる「書くこと」の活動につなぐ言語活動を取り入れる。
- ・定期テストや単元テストにおいて読んだことを基にして書くなどの技能統合の問題形式を取り入れる。

<具体例>

【課題】

- ① 来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く問題 <聞くこと+書くこと>

本県	9.6%
全国	7.6%

- ② 食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く問題 <読むこと+書くこと>

本県	9.9%
全国	10.9%

- ③ 学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く問題<書くこと>

本県	2.2%
全国	1.8%

【成果】

- ① 教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する問題 <聞くこと>

本県	91.0%
全国	88.6%

- ② ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する問題 <読むこと>

本県	81.3%
全国	79.4%

- ③ 月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する問題 <読むこと>

本県	76.3%
全国	73.1%

(生徒質問紙調査) ※「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合

	英語の勉強は好き	英語の勉強は大切	英語の学習は将来役立つ
本県	57.7%	87.3%	87.6%
全国	56.0%	85.4%	85.4%

4 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査の結果

<児童生徒質問紙調査より>

○ 全国平均を上回った主な項目

・ 基本的な生活習慣に関する内容

(「している」、「どちらかといえば、している」の割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
朝食を毎日食べている	96.0%	95.3%	93.7%	93.1%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	83.7%	81.4%	79.9%	78.0%
毎日、同じくらいの時刻に起きている	93.0%	91.6%	94.0%	92.8%

・ 家庭学習に関する内容

(「している」、「どちらかといえば、している」の割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
自分で計画を立てて勉強している	79.3%	71.5%	56.7%	50.4%

・ 規範意識や人間関係、自分自身に関する内容

(「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」の割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
学校のきまりを守っている	94.6%	92.3%	96.9%	96.2%
人が困っているときは、進んで助けている	88.9%	87.9%	87.7%	85.9%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	97.6%	97.1%	95.9%	95.1%
人の役に立つ人間になりたいと思う	95.5%	95.2%	94.7%	94.3%

・ 学び方（主体的・対話的で深い学び）に関する内容

(「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」の割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う	79.5%	77.7%	78.6%	74.8%
授業で、自分の課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う	69.3%	65.7%	66.5%	61.5%
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	74.5%	74.1%	73.1%	72.8%

▼ 全国平均を下回った主な項目

・ 自己肯定感に関する内容

(「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」の割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
自分には、よいところがあると思いますか	80.8%	81.2%	72.7%	74.1%

<学校質問紙調査より>

○ 全国平均を上回った主な項目

- ・カリキュラム・マネジメントに関する内容
 (「よく行った」、「どちらかといえば、行った」の割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列している	98.1%	95.1%	97.4%	91.3%
教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関係が分かるように作成している	96.3%	93.7%	94.2%	88.1%

- ・主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する内容
 (「よく行った」、「どちらかといえば、行った」の割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。	92.7%	85.5%	92.0%	82.6%
各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた	92.2%	84.7%	89.3%	77.9%

- ・小中学校間の連携に関する内容
 (「よく行った」、「どちらかといえば、行った」の割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った	82.6%	65.0%	84.0%	68.0%
平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小(中)学校と成果や課題を共有した	79.5%	60.6%	79.1%	60.0%

- ・教育課程におけるPDCAサイクルの確立
 (「よく行った」、「どちらかといえば、行った」の割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	99.2%	95.4%	99.1%	93.4%

- ・ICTを活用した学習状況
 (「ほぼ毎日」、「週1回以上」の割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
前年度に、教員が大型掲示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICTを活用した授業を1クラスあたりどの程度行いましたか	80.0%	80.8%	85.8%	80.8%